



①下見した会場の様子②並べられたトーチ③トーチキスのあと、2人でねぶたのポーズ。④スタッフのみなさんと記念写真

止が決まったわけですね。そのときに代替イベントの話はあったのですか？
いや、なかったんですよ。むつ市では公道での聖火リレーを中止しますと、それだけで。とはいえ、県内の感染状況を見て、もしかしたらできないかもしれないとは思っていたので、びっくりこそしたけれど、仕方がないなって思ってたんです。代替イベントの連絡が来たのは6月7日でした。10日にやる方向で調整していたそうなんです。ランナー全員に詳細な連絡が来たのは3日前でした。

——そういった経緯を経て、とうとう迎えたイベント当日はどうでしたか？
ランナーサイト上でやり取りしていた、今まで顔も知らなかったいろいろな方と初めてお会いして、その方たちと一緒に待機していたり、会場を見て回ったりしたんですが、まずスタッフがすごい人数いるのにびっくりしました。なんだかデイズニールランドみたいだなというか、対応も至れり尽くせりで。待機している間も、緊張をほぐすための話しかけてきてくれました。控室から会場へ移動するときなんかは、スタッフが通路脇に

立って拍手で送ってくれて、こういう経験はしたことがなかったので、普段見ることのできない景色を見ることができました。
——自分が走る番が近づいてきて、いざ走るぞとなった時の心境は？
トーチが人数分テールに並んでいって、30mずつ走るので、あなたはここ、あなたはここと、立ち位置が振り分けられていったんです。私はすごく緊張しちゃったんですけど、自分が走るときになると、家族が近くにきてくれて、コースの中に入って写真を撮ったりきたんですけど、旦那が近くに来てくれて。それから偶然高校の友達と30年ぶりに再会して、始まる前に話ができ、それでリラククスできましたね。
そうそう、始まる前にトーチキスでどういふポーズをするのか打ち合わせしたんですけど、当日まで誰とやるのか、相手の名前も顔もわからなくて。来たのはむつ市の方で、元自衛官の方だったんですけど、その方の希望でねぶたのポーズをとることになったんです。ですが会場に入ってから、「石塚さんは何かやりたいポーズないですか？ 自分もやりませんから何かやってください」と言われて、別にないし考えていなかったんですけど、「それなら空に手を振ってください」と言いました。何ですかって聞かれたので、息子が上にいるからだと言え、その方は「わかりました」って。あとで動画をみて気がついたんですけど、その方は打合せどおりにポーズをとったあとで、空に向かって敬礼をしてくれてたんですね。それを見たときは、

なんだかぐっときました。
——走り終えて、今、どんな心境ですか？
「お疲れさま」とか、「見たよ」とか声をかけてくれる人が多くて、息子が亡くなったときもそうだったんですけど、地域の人がすごく支えてくれて。歯科衛生士の仕事は人に会う仕事なので、本当は何回も辞めたいなって思うこともあって、人と顔を合わせて、いろいろ聞かれたり、言ったりしなきゃいけないのがすごくつらい時期がありました。でも、仕事辞めないでとか、いろいろ声をかけてくれたりしたのも地域の人だったし、仕事を辞めずに30年続けてこられたのも、やっぱり地域の人たちのおかげだなって思います。
私が聖火ランナーに応募したのは、とりあえず応募してみようと思ったからでしたけど、違う場所に行ってみてわかること、1歩外に出て交流を持つたりすれば、そこで知り合った人との交流から、自分のやりたいことが広がったりすることもあると思うので、佐井の子どもたちにも、そういう気持ちには大事にしてほしいなと思います。
今はコロナでいろいろ大変な時期だけど、もしかしたら聖火リレーも1年延期になったからこそ、こんなにもほかの市町村の方との交流が深まったのかなって思います。コロナ禍でいろいろできないことはあるけれど、コロナ禍だったからできた縁や繋がりもあるので、悪いことだけじゃなかったなって、つくづく思います。